

令和3年度  
事業報告書

社会福祉法人 みんなでいきる

## 1. 法人の現況

### 1-1 令和3年度総括

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、法人運営に大きな影響が発生した。法人経営においては稼働率、利用率の低下はもとより、ご利用者については、利用や面会の制限がかかるなど、家族とのつながりや、生活面においても大きな影響があった。また、施設運営面においては、人員不足により「介護老人保健施設サンクス米山」及び「特別養護老人ホームサンクスレルヒの森」については、適正な人員での運営を行い、職員の負担軽減を図るために一時的に運営を縮小し、利用定員100名ところ80名での運営を当面の間行うこととなった。

「障害福祉事業部」においては、経営面では安定的な運営されていたが、職員の定着についてはやや課題を残す結果となった。また今後、サービスを必要とする利用者の増加に伴い、就労系サービスや居住系サービスの充実について検討が必要になるものと思われる。さらには厚生労働省において障害者総合支援法の見直しの中間報告が取りまとめられており、当法人実施のサービスとしては放課後等デイサービスについては、大きな見直しが検討されており、令和6年度の報酬改定の動きを注視する必要がある。

「児童養護施設若竹寮」では、社会的養護が必要な児童の増加が顕著となり、支援や養育の困難さが増している。令和3年度は指定管理の更新事務が行われ、引き続き「みんなでいきる」が運営を担っていくこととなり、若竹寮の運営としては「第2ステージ」に突入した年度となった。令和4年度は、人材育成や組織体制の充実を図ってまいりたい。

「みんなでいきる相談センター」では、上越市は地域包括・障害者相談・生活困窮をパッケージとして委託を出す総合相談体制を採用しており、年齢や属性を超えた相談体制の構築ができあがりつつある。しかしながら、各委託事業の縦割りの仕組みは維持されたままの状況であり、本当の意味での横断的な総合相談体制にはたどり着いていないため、今後も引き続き、上越市とのパートナーシップを維持しつつ、前向きな検討を続けていく必要がある。

上越市から令和4年度より民営化する「つちはし保育園」は共同保育を実施し、引継ぎを兼ね上越市所属の職員と「みんなでいきる」職員との合同での運営となった。最大の課題は保育士をはじめとする職員の確保であったが、予定の期間に必要な保育スタッフや専門職を確保することできた。「地域の中で“みんな”で支え合い、“いきる”力を育む保育園」の保育方針実現に向けた運営を行っていききたい。

法人本部では、本部体制変更の検討や、人材育成室の設置等、各部門の部長・次長級による会議体において「みんなでいきるが求める人材像」「ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)」を策定した。令和4年度においては人事課の創設や担当理事制度の導入、新たな会議体の設置や経営コンサル導入等通じて、円滑な運営・経営基盤の確立を目指したい。

## 2. 令和3年度事業方針の取組について

### 2-1 「部門別予算」の達成

(単位：千円)

拠点名	事業収入		達成率	事業損益		達成率
	当初予算	決算額		当初予算	決算額	
サンクス米山	575,812	535,379	93.0%	37,298	△34,186	—
サンクス柿崎	203,871	195,982	96.1%	30	△25,356	—
サンクスレルヒの森	499,632	466,399	93.3%	37,876	△2,878	—
りとるらいふ	314,432	330,179	105.0%	10,104	20,913	207.0%
若竹寮	217,010	216,901	99.9%	12,500	22,657	181.3%
つちはし保育園	27,742	27,113	97.7%	△6,212	△4,756	—
相談センター	76,406	81,111	106.2%	4,220	10,993	260.5%

### 2-2 教育システムの再構築と運用

令和3年7月21日に人材育成方針を策定する「人材育成室」を設置

■ 法人の方針(ミッション・ビジョン・バリュー)求める人材像の整理を実施。

◎ VISION(将来あるべき姿) . . . みんなでいきる

◎ MISSION(使命・目的) . . . つながりのイノベーション

「すべての人々を孤独にさせない支援」

「すべての人々が生きた証を残せるように」

◎ VALUE(行動指針・価値基準) . . . 倫理綱領

◎ 求める人材像

- ・豊かな人間性・感性を持ち、利用者の尊厳、権利を尊重できる人材
- ・専門職としての視点・知識・技術(ケア力)を備えた人材
- ・組織の一員として協働し、「新たな価値」を創造しようとする人材
- ・課題意識を持ち、主体的に行動しようとする人材
- ・自らを変容させ、成長しようとする人材

■ 令和4年度において、求める人材像に基づく研修体系の整備を実施する。

### 2-3 新たな事業の展開

(1) つちはし保育園の開園準備(令和4年4月1日民間移管)

令和3年度は園長、副園長、保育職員、給食職員の8名を上越市に出向し、引継ぎ保育を実施した。令和4年3月15日に民間移管される4園(法人)と上越市長とにおいての引継ぎ式を実施した。

■ 保育方針について

【地域の中で“みんな”で支えあい“いきる”力を育む保育園】

- 1 自ら考え、自分と他者を大切にし、人とともに生きる力の基礎作りをする場
  - ① 健康で生き生き生活できる子ども
  - ② 人とのかかわりの中でやさしさや思いやりを育む
- 2 保護者、地域、保育園での協働する保育
  - ① 安心して預けることができる保育園づくり
  - ② 24時間365日子どもの笑顔を支える保育園
- 3 ノーマライゼーション（障害のある人が障害のない人と同等に生活しともにいきいきと活動できる社会を目指す）は子どもからを感じる保育
  - ① お互いの存在を自然に認め、共に生きる心と力を育む保育園

■ 職員採用

令和3年度の出向職員も含め55名の職員体制にての開園を迎える  
(正職員、パート職員)

・ 園長	1人	・ 副園長	1人
・ 保育職員	44人	・ 給食職員	6人
・ 看護師	1人	・ 事務、園士	2人

■ 関係者調整会議の開催

民営化に伴う課題について、保護者との擦り合わせの為の関係者調整会議を4回開催した。特に大きな問題も無く開園に向けての調整を完了した。

〈開催日〉	第5回	令和3年4月28日
	第6回	令和3年7月16日
	第7回	令和3年11月12日
	第8回	令和4年2月10日

(2) 「若竹みらい創造基金」の普及促進

上越市の協力により、広報じょうえつ・広報Jステーションにて周知を実施した。また、寄付金を受領する際にメディアより取材に入ってもらふことによる周知も実施した。

■ 寄付受領額	40名(54件)	3,640,070円
■ 基金給付額	5名	1,120,400円
	(一時給付金)	350,000円)
	(家賃給付金)	770,400円)

## 2-4 障害者芸術活動の推進(本部企画課)

### (1) 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター事業の実施

ブロック内8県の支援センターが開設され、より情報共有やセンター運営のノウハウの積み上げが必要となっていた。概ね月に1回のブロック会議およびブロック研修会をオンラインで実施した。全国的に取り組みが低調となっている舞台芸術については、愛知県で3回、新潟県で1回実施することができ事業計画および予算執行ともほぼ計画通りの実施となった。

### (2) 新潟県障害者芸術文化活動支援センター事業の実施

福祉現場におけるケアと現場から生まれてくる表現に相関があるのではと仮説を立て、事例集の制作をスタートさせた。SDGsの推進が後押しし、商用化に関わる相談が増加傾向であった。(令和2年度5件→令和3年度18件)。

### (3) ふふふのお店の開店

高田ロータリークラブ主催のフクシ×アート×デザイン展がきっかけとなり地域に点在している表現を展示したりアートグッズを販売する常設店を休眠預金を活用し開店した。お店という体裁をとっているが主な目的は相談体制の充実であった。有償ボランティアで運営のお手伝いをしているアーティストを2022年4月21付けで障害者雇用枠で雇用することが決定している。

### (4) 福祉教育の実施

一般社団法人FACE to FUKUSHIから委託を受け新潟県内4校でアートと福祉に関わる授業を実施した。令和4年度以降も上越市内の教育機関で継続して実施していく予定である。

## 2-5 高齢福祉事業及び障害・児童福祉事業の更なる融合

### 【事業部間職員異動実績】

→ 平成28年度異動者	4人
平成29年度異動者	19人
平成30年度異動者	13人
令和1年度異動者	2人
令和2年度異動者	9人
令和3年度異動者	3人

異 動 前	異 動 後	人数	摘 要
サンクスレルヒの森	つちはし保育園	1人	開園に伴う異動
若竹寮	つちはし保育園	1人	〃
若竹寮	本部	1人	本部機能強化

## 2-6 「働きがいのある職場への実現」への取り組みを実施

### (1) 人員確保対策による職員負担軽減

人材確保については、高齢部門を中心としてハローワークからの応募は皆無となり、各施設において欠員が一年間を通じて生じた。

紹介会社を中心として採用を実施したが、入職後に早期に退職することも少なく、費用対効果においては課題が残った。

令和4年度より人材の採用(新卒、中途)、教育研修を所管する人事課を創設し一貫した採用教育体制を実施する。

### (2) 職員の継続雇用の推進

#### ■ 職員メンタルヘルス外部窓口の開設

社外相談窓口「こころの窓口なごみ」と契約し、外部専門家へ直接相談できる体制を整えた。職員は電話またはメールにて相談をおこなうことができ、相談内容についてはプライバシーが守られる仕組みとなっている。

#### ■ 健康サポート室よりの情報発信

法人内健康サポート室において、偶数月に「健康サポート室だより」を発行し全職員へ給与明細と一緒に配布している。目的として、心の整え方を知らせると共に気軽に相談できる環境整備の一環。本年度は4号発行済み。

## 2-7 優秀な人材確保及び離職防止に向けた採用研修への取り組み。

### ① 令和4年度入職新卒職員採用者数

最終学歴	採用数	配属部署	
大学卒	6人	高齢福祉事業	3人
短大専門卒	1人	障害福祉事業	3人
高卒	2人	児童福祉事業	3人
計	9人		

※ 上記採用者数の内訳(重複あり)

- ①県外大・短大卒数(3人)    ②上越市外出身者数(2人)  
③福祉系大卒(4人)        ④福祉系短大専門卒(1人)

### ② 新卒入職職員へのフォローアップ研修の実施

目的：1年目の目標の明確化及びフォロー実施することによる離職防止

日程：4回開催(5,7,10,3月)

### 3. 法人の概要

#### 3-1 事業所の概要

事業部	事業所名	サービス名	定員	管理者	開設年月
高齢福祉 事業部 「サンクス」	介護老人保健施設 サンクス米山	①介護老人保健施設 ②通所リハビリテーション ③訪問リハビリテーション	100名 30名	原田 雷太郎	H15.9
	サンクス柿崎	①短期入所生活介護 ②通所介護	40名 20名	白砂 弘継	H25.4
	特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森	①介護老人福祉施設	100名	塚田 光知子	H27.6
障害福祉 事業 「りとるらいふ」	りとるの家	①生活介護「きら」	20名	久保 久美子	H22.4
	りとるの家はなれ	①放課後等デイサービス「ららん」	10名	久保 久美子	H24.5
		②短期入所「ぷあん」	8名	片田 竜一	
	とも	①生活介護「とも」	20名	久保 久美子	H30.4
	にこ	①放課後等デイサービス「にこ」	10名	吹原 和美	H27.6
	ぱれっと	①放課後等デイサービス「もーと」	10名	久保 久美子	H31.4
		②グループホーム「ふぁみりあ」	12名	片田 竜一	H31.4
③生活サポートホーム「ぱれっと」		6室	片田 竜一	H31.4	
しゃぼん玉クラブ	①高田西小学校放課後児童クラブ	75名	片桐 公彦		
児童福祉 事業	児童養護施設 若竹寮	①児童養護施設	56名	片桐 友紀	H29.4
	つちはし保育園※1	①保育所	200名	山本 宏昭	R4.4
地域生活 支援事業	みんなでいきる 相談センター	①地域包括支援センター ②居宅介護支援 ③特定計画相談支援 ④障害児相談支援 ⑤上越市生活困窮者支援事業 ⑥上越市子どもほっとライン事業		江部 健幸	H30.4

※1 令和3年度については、上越市へ職員を出自し共同保育を実施



3-2 施設職員数の推移 ㊦正職員 ㊧契約職員・パート・アルバイト

拠点名	年 度	令和1年度末	令和2年度末	令和3年度末	増 減
サンクス米山	正	72人	73人	73人	+0人
	他	23人	28人	29人	+1人
	計	95人	101人	102人	+1人
サンクス柿崎	正	27人	25人	28人	+3人
	他	16人	16人	14人	△2人
	計	43人	41人	42人	+1人
サンクスレルヒの森	正	57人	59人	58人	△1人
	他	26人	27人	32人	+5人
	計	83人	86人	90人	+4人
りとるらいふ	正	40人	44人	46人	+2人
	他	24人	26人	28人	+2人
	計	64人	70人	74人	+4人
若竹寮	正	33人	34人	31人	△3人
	他	6人	5人	7人	+2人
	計	39人	39人	38人	△1人
つちはし保育園	正	0人	0人	11人	+11人
	他	0人	0人	0人	+0人
	計	0人	0人	11人	+11人
相談センター	正	11人	15人	14人	△1人
	他	0人	0人	0人	+0人
	計	11人	15人	14人	△1人
法人本部	正	9人	9人	9人	+0人
	他	0人	1人	0人	△1人
		9人	10人	9人	△1人
総 計		344人	362人	380人	+18人

### 3-3 財産債務及び損益の状況の推移

#### (1) 財産債務の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和1年度 R2. 3. 31現在	令和2年度 R3. 3. 31現在	令和3年度 R4. 3. 31現在	増 減
流動資産	472,524	503,427	499,039	△4,388
固定資産	2,852,100	2,726,765	2,640,233	△86,532
基本財産	2,515,964	2,414,965	2,412,217	△2,748
その他の固定資産	336,135	311,799	288,016	△23,783
<b>資産の部 計</b>	<b>3,324,624</b>	<b>3,230,192</b>	<b>3,139,272</b>	<b>△90,920</b>
流動負債	315,168	340,156	375,580	35,424
固定負債	2,066,928	1,974,799	1,939,785	△35,014
<b>負債の部 計</b>	<b>2,382,096</b>	<b>2,314,955</b>	<b>2,315,365</b>	<b>410</b>
<b>純資産の部 計</b>	<b>942,527</b>	<b>915,235</b>	<b>823,906</b>	<b>△91,329</b>

#### (2) 損益の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	増 減
<b>サービス活動収益</b>	<b>1,746,224</b>	<b>1,884,823</b>	<b>1,876,124</b>	<b>△8,699</b>
人件費	1,130,837	1,211,647	1,273,643	61,996
事業費	234,615	252,645	253,367	722
事務費	286,570	281,979	291,391	9,412
減価償却費	116,981	117,322	122,163	4,841
その他	9,733	8,998	7,886	△1,112
<b>サービス活動費用</b>	<b>1,778,736</b>	<b>1,872,591</b>	<b>1,948,450</b>	<b>75,859</b>
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>-32,512</b>	<b>12,232</b>	<b>-72,326</b>	<b>△84,558</b>
サービス活動外収益	6,269	7,627	9,110	1,483
サービス活動外費用	16,746	17,293	17,896	603
<b>経常活動増減差額</b>	<b>-42,989</b>	<b>2,566</b>	<b>-81,112</b>	<b>△83,678</b>

### 3-4 会議の開催状況

#### (1) 理事会（定数7人）

回数	開催年月日	出席理事数
第1回	令和3年5月31日	7名
第2回	令和3年6月15日	7名
第3回	令和3年7月5日	7名
第4回	令和3年9月24日	書面表決
第5回	令和3年10月29日	6名
第6回	令和3年11月29日	6名
第7回	令和4年3月30日	6名

#### (2) 評議員会（定数8人）

回数	開催年月日	出席評議員数
第1回	令和3年6月14日	6名

### 3-5 監査の状況

#### (1) 法人監事による監査

- ① 実施日時：令和3年5月14日
- ② 場 所：法人本部
- ③ 監査項目：会議開催状況、決算、資産・負債残高照合
- ④ 監査所見：特になし